



# ゆり組だより 9月号



令和3年9月22日 こひつ保育園 担当・熊澤

いつの間にか、セミの声が「オロキ」の声に変わり、季節は  
どんとんと秋が近づいてきました。

保育園では、運動会の練習が始まり、子ども達も「今日は、リレーやる?」  
「おゆうぎもやりたい。」など張り切っています。鼓笛では、皆と協力すること、  
合わせることの難しさ、楽しさ、最後まで頑張る気持ちなどを、  
活動をとおして学んできました。

思い出に残る、運動会となるよう、応援よろしくお願ひ致します。

さて、戸外遊び中の出来事です。子ども達数々が、園庭の藤棚で、  
「鳩が... 変なんだよ。」と困ったような表情で馬区け寄ってきました。  
一緒に見に行くと、そこには、巣があり、一羽の鳩が居ました。  
目を閉じ、じっとしている姿に「生きてる?」「眠っているだけ?」と、子ども達は、  
バツ配だったようです。

元気なことが分ると、安心し、「眠っているなら、そーと帰らなきゃ。」と、  
中腰でそろそろと歩く姿から、優しいバツが伝わってきました。

その後、皆で観察を続けましたが、ある日姿が見えなくなり、別の場所へ  
移ったようでした。

「いつでも帰ってこれるように巣はそのままにして」と  
意見があり、今でも残っています。

これからも、子ども達の祭見を  
共感して過ごしたいです。

おもしろい、うれしい、楽しいたくさん  
感じられる保育を実践して参ります。

